

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズおおくぼ保育園
施設所在地	東京都新宿区百人町2-22-6

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

### 「五感」

～様々な音に触れて音を全身で感じ、五感を通して豊かな経験を重ねる～  
～感触遊びで、五感を刺激し、手指の発達を促す～  
～様々な色の違いや、光による色変化に気づいて楽しむ～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

(0歳児)

日常の保育の中で、水に触れた時の音や滑り台を叩いた時の音などを楽しむ姿が見られるようになった。そこで、さらに音遊びを楽しめるように、1年を通して様々な音を楽しむ機会を作り、遊んでいけるように考えていった。ただ、音遊びを楽しむだけでなく、音遊びを通して五感に触れて遊べるよう関わっていかうと話し合った。そこで、夏には水遊び中に水を叩く音を楽しみ、秋には、落ち葉を触ったり、踏んだりした時の音を楽しみ、クリスマス会では、手作りマラカスで遊び喜ぶ姿が見られるようになった。五感に触れながら音遊びを楽しむことができていた。1年を通して、音遊びに関心を持って遊ぶようになったところで、音の鳴る玩具を充実させていきたいと感じるようになった。0歳児でも楽しめるミュージックパッドを使って遊ぶことで楽しんでくれると感じ、今回のねらいに繋げていった。

(1歳児)

様々な素材に触れて五感を刺激し、手指の発達や想像力や思考力を養いたいと考えた。遊びを通して新しい発見や表現の楽しさを体験し、好奇心と探究心を育くめるような計画を立てた。

(2,3歳児)

遊びの中でブロックを好んで行う姿が見られ、その中でも色へのこだわりを持つ姿も多く見られたり、片付けの際に色ごとに片付けを行っていた事により色の名前を知ったり、色に興味を持つ様子が見られるようになった。日常にあふれる“色”への興味関心を引き出し気づくことで子どもたちの世界観が広がっていかうと思ひ設定した。そして、普段と違うクリアブロックを用意する事で、更に色に対する興味関心が広がるよう設定をした。

## 2. 活動スケジュール

4月	砂遊び
5月	砂遊び、泥遊び
6月	泥遊び、新聞遊び、片栗粉遊び
7月	水遊び、新聞紙遊び、保冷剤遊び、入浴剤遊び
8月	寒天、小麦粉粘土、花紙スライム、ボディーペインティング、食紅で色水遊び
9月	ハンドソープ遊び、寒天&ゼリー遊び、片栗粉遊び
10月	砂遊び
11月	砂遊び
12月	新聞紙遊び、花瓶遊び
1月	センサリーマット、バランスストーン、糸こんにゃく 片付けゲームを通して色の名前や種類等を改めて知る。(導入)
2月	リキッドフロアタイル、雪遊び、クリアブロック、ライトテーブル 重ねたり並べたりしながら光による色の見え方の違いを楽しむ。(展開)
3月	戸外に出かけ、カラーセロファンメガネを用いながら自分たちで色の変化を感じる。(発展)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

### ◎準備物

レゴブロック、ライトテーブル、クリアブロック、手作りカラーセロファンメガネ、手作りマラカス、砂遊びセット、新聞紙、片栗粉、小麦粉、春雨、糸こんにゃく、ハンドソープ、寒天、ゼリー、食紅、絵の具、氷、ハンドソープ、洗濯のり、バケツ、タライ、雑巾、タオル、レインボーバランスストーン、リキッドフロアタイル

### ◎環境

室内で行なう際には1人1人が集中して行うことが出来るように少人数ずつ行う。

保育士はある程度の使い方を知らせた後は見守りを行い、子どもたち自身の気づきを引き出せるようにした。

0歳児でも楽しめる音の鳴る玩具を検討し、軽い力で押しても音が鳴るミュージックパッドを用意した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### (0歳児)

秋になる頃には、落ち葉を破った時の音を楽しんだり、クリスマス会では、1人1つ使えるように小豆を使って作ったマラカスを用意したりしながら、リズム遊びを楽しめるようにした。「ジングルベル」や「あわてんぼうのサンタクロース」の歌に合わせてマラカスを振ることを楽しむ姿が見られた。月齢に関係なく、リズム遊びを楽しむ姿が見られるようになっていた。

###### (1歳児)

1歳児向けの感触遊びは、五感を刺激し、脳や体の発達を促す大切な活動なので、子どもの興味や発達に合わせて様々な素材を取り入れていく。

様々な素材に触れることで、感触の違いを楽しんだり、指先の感覚を養ったりするので、触るだけでなく、匂いや音、見た目など、五感をフルに使い楽しみながら育てるように工夫を凝らしていく。

握る、ちぎる、こねる、丸めるなど、指先の微細な動きを促すことを意識し、手指の発達や、手指の感触遊びだけではなく、バランスストーンやリキッドフロアパネルを使用し、足指からの感触遊びも取り入れた。

感触遊びは一度で終わらせず何度も繰り返し行い、主活動の一環として継続的な活動を心掛ける

###### (2,3歳児)

音遊びに関心を持つようになったところで、ミュージックパッドを使って遊び楽しんだ。

ブロックで遊んだ後は、色の名前が覚えられるように色ごとに片付けるゲームとして行っていた事で、色の名前を認識ができるようになった。色に興味を持ち始めたことで、ライトテーブルとクリアブロックを用意をした。クリアブロックを自由に置いたり重ねたり、日の光を透かして見たりしながら遊んだ。

また、戸外ではカラーセロファンで作った眼鏡を使用して周囲の景色を見ることで普段とは違う色の見え方や身の回りにある様々な色や変化に気づくことができるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

(0歳児)

他児と関わることを楽しむようになった時期だった為、他児と顔を見合わせながら楽しんだり、同じ空間で楽しんだりする姿が見られた。又、保育士がパッドを手で押したり踏んだりして音を出すと、それを真似て新しい玩具に関心を持って遊ぶ姿が見られ、手で触ったり、歩くようにミュージックパッドを踏んだりして、音が鳴ることを楽しむことができていた。ジャンプをしながら楽しむ姿も見られた。

低月齢児は、音が鳴る事に怖がっていたが、保育士がそばにつき一緒に遊んでいくことで、少しずつ新しい玩具に慣れて触ってみようとする姿が見られるようになった。個々のペースに合わせて、無理なく楽しめるように関わっていったことで、興味を持って遊ぶ姿が見られたことがよかったと思う。

保育士と一緒に楽しんでいったことで、子ども達が十分に楽しむことができていたことがよかった。又、自然と身体を動かして遊ぶ事にも繋がっていた。

(1歳児)

初めての素材に触れる際、すぐに手を出す子ども、少し離れて様子を伺う子どもなど、反応は様々で保育士の真似をしたり、他児が遊ぶ姿を見て遊びに参加する子どもの姿があった。

片栗粉のサラサラした感触に指を動かしたり、水が加わってドロドロした粘

土状になる不思議な感触に興味を示し、形や色の変化など五感で感じながら活動を楽し

んでいた。継続的な活動を繰り返し行う事により、汚れても気にする事なくダイナミック

に触ったり混ぜたりする子どもが多く、時間を忘れて没頭する姿が見られ、「先生、これOOだね」と感想を伝えてくれたり、「これとこれを混ぜてみよう」と子どもたち

の発想で遊びを展開する場面もあった。初めて行うバランスストーンでは、不安定な足

場でバランスを取る事を楽しんでいた。足裏を刺激しながら最後まで渡り切れた事を喜び、

着地は体操選手のようにポーズを決めていた。保育士は子どもと一緒に感触の違いを確かめな

がら、「冷たいね」「ツルツルしてるね」など、言葉で伝え手指や足指、言葉の発達など好奇心や探求心が育むような言葉がけを促した。

(2,3歳児)

レゴブロックでは日の光を透かして見る事が出来ないが、クリアブロックでは、日の光を透かして見られることに気づき透かして見たり、光が透ける様子を床に映す姿も見られた。更にライトテーブルを用意すると、ブロックを重ねた際に「きれいだね」「宝石みたい」と話す姿が見られ、友だち同士で見せあう様子もあった。

戸外ではどのような気づきがあるだろうと考え、カラーセロファンで眼鏡を作り出掛けることにした。カラーメガネを覗き込みながら周囲の景色がそれぞれの色に見えることを楽しんでいた。

2歳児クラスでは色の違う眼鏡を交換しながら覗いて色の変化を感じていたが、3歳児クラスではメガネを重ねて見ようとする姿が見られた。保育士が「みんなの影は黒いけどメガネはその色に見えるね」と声を掛けると「ほんとだ」と自分たちでも試していた。



養子  
も可



占付  
可能



。)



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

(0歳児)

音遊びを通して五感を刺激するというねらいを立てたことで、保育士の声掛けの仕方が変わっていったことを感じた。ただ、音遊びを楽しむのではなく、五感を刺激しながら遊ぶという視点を持って関わることができたことが良かったと思う。1年を通して保育の中で音遊びを楽しむ機会を作っていたことで、子ども達の関心を高めることができていった。その為、ミュージックパッドで遊んだ時には、興味を持って楽しむことができていたと思う。又、保育士や他児と一緒に楽しんだり、身体を動かし楽しんだりしていたことがとても良い取り組みに繋がっていたと思った。

ミュージックパッドは、様々な意見をもらいながら選択できたことで0歳児でも押しやすい玩具を選ぶことができていたと思う。

(1歳児)

感触遊びを始めたばかりの頃は、手の汚れや初めて触る感触に抵抗を感じる子どももいたが、感触に慣れるにつれて「やってみたい」という意欲が芽生え、自ら積極的に関わる姿が見られるようになった。

保育士自身が楽しそうに遊び、小麦粉、片栗粉、寒天、糸こんにゃくなどの素材に触れて、食紅で色をつけると、子どもたちが笑顔で集中して遊ぶ様子がよく見られた。

粘土遊びからパン屋さん、アイス屋さんごっこなど、違う遊びに発展し子どもたちの想像力によって遊びのバリエーションが増えた。

身近にある様々な感触遊びを取り入れた事により、子どもたちの気づきを言葉や表情で教えてくれるようになった。

身近な素材が子どもたちにとって、無限の遊びに発展し広がっていった。

(2,3歳児)

2,3歳児クラス合同で活動を行なった。活動ではどちらのクラスも同じような反応ではあったが、カラーメガネを使っての活動では2歳児が覗いたり交換したりと1色の違いを楽しむだけだったが、3歳児はさらに気づきが発展し、色を重ねたり影での映り方を楽しんだりと気づきの違いが見られた。子どもたち同士で違いや気づいたことを話す様子もあり楽しんでいたため引き続き活動の中に取り入れていきながらさらに興味関心を深めていきたい。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都新宿区百人町2-22-6
園名	クオリスキッズおおくぼ保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

～夏野菜の栽培を通して、生長の不思議や収穫の喜びを感じる～

～水やりや観察を通して、命の大切さに気付く～

<テーマの設定理由>

4.5歳児の階にはテラスがあり、そこで例年野菜を育てている。そこで今回4歳児は初めての野菜作りということで、5歳児と協力しながら夏野菜作りに挑戦した。だがただ作るだけでなく成長記録をつけ、どのようにして育っていくのか、出来た野菜はどんな形かどんな味がするのか気づき発見し、苦手意識がある野菜に興味を持てたらいいなと思い今回のテーマにした。

5歳児も野菜作りの中で、当番の役割や観察記録など年長としての姿を年下に見せ伝えられる機会になる。

### 2. 活動スケジュール

- ・ 5歳児が何の野菜を育てるかサークルタイムで3種類決める
- ・ 昨年使用していた土に、栄養のある新しい土と肥料を混ぜプランターに鉢底石を敷く
- ・ キュウリ、トマトの苗とはつか大根の種をグループごとに植える
- ・ 4.5歳児の水やり当番が朝夕に水やりを行う
- ・ 植えてから1週間ごとに観察絵日記をつけ貼りだす
- ・ 収穫出来たら野菜を観察し、給食の時間にて試食する

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### <環境>

- ・日当たりのいい箇所にプランターを設置する
- ・子ども達がいつでも観察できるようテラスに靴を置き、出入りを自由にした
- ・観察絵日記は廊下に貼りだし、他児の絵と見比べられるようにし、保護者や他の保育士の目に留まるようにした

#### <準備物>

プランター・きゅうり、トマトの苗・はつか大根の種・腐葉土・肥料・鉢底石  
支柱・ビニール紐・ブルーシート・スコップ・じょうろ  
観察絵日記用紙・色鉛筆・虫眼鏡

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

3種類の野菜を育て、生長の記録を観察絵日記にした。3種類全て描いても、1種類自分が決めた野菜を描いても良いと子どもたちに任せた。描いたものは自由に見返せるように廊下に貼りだし、様々な人に見てもらえるようにした。  
収穫した野菜は、給食とは別添えで出してもらい野菜本来の味が味わえるようにしてもらった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

夏野菜を育てることに期待感を持ち、土づくりから楽しんでいる様子だった。チームごとに苗や種を植えたことで、愛着も沸き毎朝テラスを覗く姿があった。水やり当番が回ってくる事をとても楽しみにしており、野菜の生長を身近に感じていた。生長を見ての気づきや発見を他児や保育士に嬉しそうに伝えてくれたので、その気持ちに共感し更に一緒に観察していった。野菜の観察絵日記では4.5歳児共に絵を描くことが好きなので、テラスに机と椅子を持ってきて描きたい野菜を観察し他児と会話をしながら描いていた。野菜が生長するにつれ絵もダイナミックになり、大きくなっていることを絵で見ても実感していた。他児との絵や今まで描いてきた絵を見比べられるようにしたので、保護者や保育士、他児と観察絵日記を通して会話が広がっていた。

野菜が収穫出来たらみんな大喜びで優しく触り、虫眼鏡で表面などを観察した。収穫する際も野菜によって取り方がそれぞれなので、どの野菜を収穫するか選ぶのも楽しんでいた。給食で育てた野菜が出るとしっかりと味わい「みんなで作ったからこんなに美味しいんだね」と会話も聞こえ喜んで食べる姿があった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

土作りから行ったことで、野菜を作ることの大変さや普段味わう事の出来ない体験が出来た。また異年齢児で行うことで、昨年経験した5歳児が4歳児に教える姿もあり年上としての自覚の芽生えや4歳児は教わることの学びや憧れに繋がった。

ただ育て当番活動をするだけでなく、観察して興味をもち気付いて発見できる環境をつくることが出来た。それは子どもたちにとって普段食べている給食にも繋がり、あまり食が進まない野菜を食べるきっかけにもなった。

野菜作りを通して、様々な学びや体験、食育にもなり子どもたちにとって良い経験となる。